

Nom. Jap. Hirabo-gayatsuri (nov.).

Hab. Honshu: Tajimagahara in prov. Musashi (T. Koyama, 1 Oct., 1950 —typus in Hb. National Sci. Mus.). Mikawa-mura in prov. Kii (K. Mikashi, Nov., 1952.).

1. **コオニガヤツリ**。オニガヤツリとコゴメガヤツリの雑種であるが、オニガヤツリの形質が強く表われて居る。根莖のある事、稈が太く葉の幅の広い点及び鋭頭で側面に脈の有る鱗片はオニガヤツリの形質、花序の形態や花穂の軸に毛の無い点、小穂の花数の少ない点及び鱗片が倒卵形を帯びる点はコゴメガヤツリの形質である。紀伊三川村産。両種共に紀州では普通である。種名は採集者山本虎夫氏に献じた。

2. **フサガヤツリ**。チャガヤツリの雑種で、紐形の長い小穂はチャガヤツリの形質、其の密に排列の状はコゴメガヤツリの形質であると考えた。鱗片は芒は無いが凹頭でも無く丁度両親の間である。武蔵田島原産。京都大学腊葉庫に橋本忠太郎氏が近江で採集せられた標本があつた。

3. **ヒラボガヤツリ** (平穂ガヤツリ)。カヤツリグサとコゴメガヤツリの雑種で、小穂の着き方と凹頭の鱗片がコゴメガヤツリからの形質であり、花数の多い小穂はカヤツリグサの形質と考えられる。小穂は幅広く、扁平で黄色が目立つ。田島ヶ原及び浦和で見つた事があつたが、三橋熊作氏が紀伊で採られた。

正誤表 (第 28 卷 10 号)

Errata (Vol. 28, no 10)

頁 page	行 line	正 read	誤 for
289	10	and Gagnepain (1916)	(1916) and Gagnepain
290	9	最後の the を除く	
304	22	下部の花被片が	花被片の下部が
"	23	して 1 室となる	して室となる
"	図説明 c	Ovarium	Ovrsium
310	3	The oldest	Oldest
318	15	<i>villosula</i>	<i>villosa</i>
319	図説明	<i>villosula</i>	<i>villosa</i>

□大井次三郎：日本植物誌 1383pp. (1953) 至文堂 (5,500円) 現在の日本に自生し又は普通に野生化している種子植物について、科・属・種毎に検索表を附し、各種の下に学名、和名、記載、分布があげてある。本書は日本植物の種及び顕著な変種を明かにするのを主張したもので、3987 種が収められている。

□三木茂：メタセコイア (生ける化石植物) 141pp. (1953) 日本礦物趣味の会 (450 円) メタセコイアに関連のある色々な事柄を集めて分りよく解説してある。